

上越の国有林における取組

—令和5年度—

上越森林管理署



新潟県内の各森林管理(支)署は、国有林で実施している一貫作業システムや生産性向上の取組等について、民有林関係者に広く技術の普及を図るため、平成29年度から現地検討会等を実施しているところです。

- 上越地域における民国連携メンバーへ「ドローン操作の説明と演習」
- 上越地域における民国連携運営会議

■上越地域における民国連携メンバーへ「ドローン操作の説明と演習」

【目的】

民国連携運営会議のメンバーである頸南森林組合で、UAV（ドローン）の購入を検討している旨の話があったことから、ドローンに少しでも慣れていただくことを目的に操作演習を行いました。



【実施内容】

当署で所持しているUAV（ドローン）2機種のスぺックの説明と現地においてUAV（ドローン）の組み立てから実際にドローンを飛ばしてもらい操作演習していただきました。



参加者は、UAV(ドローン)を飛行させたことがない者であった!!



【今後の展望】

現在、当森林組合では、民有林に係る土地所有者の境界や林況調査等において、現地を踏査して実施しており、大変苦慮している状況にあります。

また、上越地域では、まだまだUAV（ドローン）が普及していない状況ではありますが、今回のUAV（ドローン）操作演習を基に、森林・林業分野においても、今後期待できるICTなどの新技術を積極的に活用し、森林管理や林業の効率化等を図ることが期待されています。

上越地域の森林管理の基礎となる資源情報の高度化、データや最新技術を活用した「スマート林業」の推進に繋がっていただければと考えています。



■上越地域における民国連携運営会議

【目的】

上越森林管理署では、民国連携の取組として、上越地域の民有林と国有林が隣接する区域において、森林共同施業団地を設定し、それぞれの関係者が、森林作業道の開設や森林整備（間伐や保育作業等）に関する事項を定め、協定者が連携して効率的かつ安定的な木材供給と事業の集約化を推進し、林業経営の基盤づくりと森林整備を推進することを目的としてきたところです。

【民国連携運営会議の実施内容】

昨年度は、以前から検討を進めてきた国有林の施業実施予定候補地について、運営会議メンバーを参集し、現地の状況等を確認（地上と上空(UAVを使用)）してもらい、施業実施の有無について意見を伺ったところ、資源量や低コストの搬出先の確保が困難であり、現実的ではない旨の意見がありました。

このことから、今年度は、事業個所の洗い出しを目的に次年度以降、各機関で実際に施業を実行する事業個所を持ち合い運営会議を開催しました。

今期の国有林森林計画では、多面的、多角的な視点で検討しても共同で実施できる事業個所がないことが判明しました。



【今後の展望】

上越地域では、各機関がそれぞれ主催している会議がありますが、会議内容や参集メンバーが同じような会議は、既存の民国連携運営会議を統合し、より内容の充実を図るため、

- ①「森林・林業施策等に係る情報交換」
- ②「低コスト林業の推進」
- ③「森林・林業に関する技術交流と普及」
- ④「獣害、自然災害等への対応」

等を盛り込み、上越地域の民国連携の取組をより効果的・効率的に進めることを目的に検討を行っているところです。